

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

## メール誤送信対策のPPAP問題

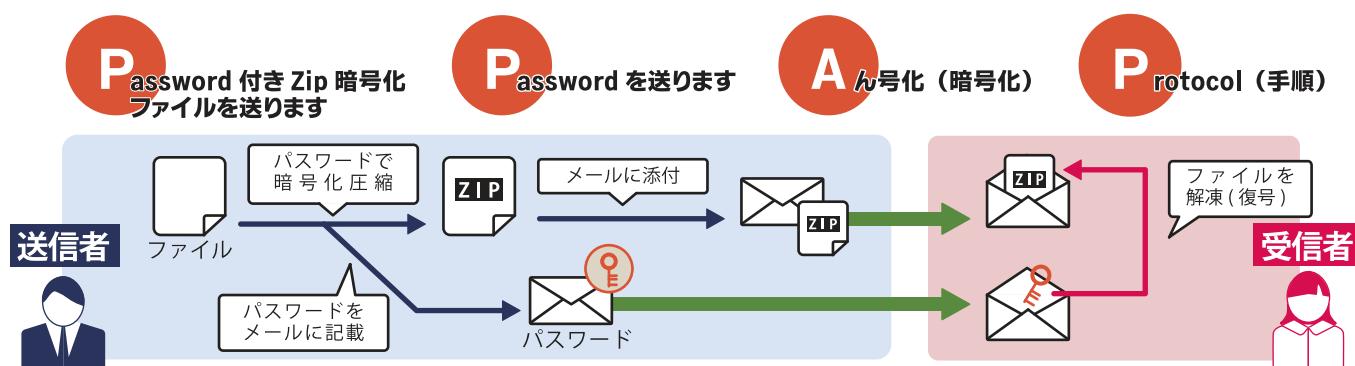
ペーパーレスやテレワークの動きは以前からありましたし、印鑑や対面での営業や、協働を尊ぶあまりなかなか普及しませんでしたが、コロナ禍になったことによりペーパーレスやテレワークへ向けた動きは一気に加速しています。会議や商談はオンラインで行なうことが広く受け入れられ、資料は印刷物よりもデータファイルが多くなり、情報や資料のやり取りにはメールを利用するこ

とが増え、データファイルを添付したメールを送る機会も増えています。そのような環境下では、これまで以上に情報セキュリティの重要性が高まっています。メールの誤送信による情報漏えいは年々件数が増加しており大きな問題となっています。様々な防止策が考えられていますが、安全で簡単で安価な方法はなかなかありません。

### PPAPの普及

メール誤送信対策として、日本では「PPAP」と呼ばれる方法が広く使われています。PPAP(パスワード付きzipファイル)をメールで送り、別のメールでパスワード

を送信する暗号化の手順)は、誤送信による情報漏えいを防ぐ方法として知られてきました。メールソフトと連動してパスワード付きzipファイルを自動作成、パスワードの自動送信をするサービスなどもあり、多くの企業で利用されていることと思われます。



### PPAP の問題点

しかし、2020年11月、平井デジタル改革担当大臣が、中央省庁での廃止に言及したこと、企業においてもPPAPの廃止に向けた議論が活発化しています。PPAPのセキュリティ対策としての問題点としては以下の3つがあげられます。

- (1) メールに添付されたファイルをスキャンする監視システムは、パスワード付きzipファイルを解凍できない。そのため、業務に関するパスワード付きzipファイルになりましたマルウェア(悪意のあるソフトウェア、ウイルスなど)攻撃を発見できない。
- (2) 同一通信経路で送信することへの危険性があり、パスワード付きzipファイルが攻撃者に奪取された場合、同じ通信経路で送信しているパスワードも同様に奪取されてしまう。
- (3) zipファイルは暗号強度が弱いため、パスワードが短時間で解読されてしまう。

PPAPに変わるファイルを安全に共有する方法としては、クラウドストレージの利用が適しているとの意見が多くできました。クラウドストレージは、クラウド上にファイルを保存し、そこを受け手だけがアクセスできるようにすることで安全性を高めることができます。ただし、新たな環境の導入が必要なためコストや時間がかかり、導入の敷居はまだ高いとみられています。

コロナ禍によって加速したデジタル・ワーク環境ですが、今後はこの環境に対応することが必要不可欠。デジタル化が進む中で、モノに対して求められてきた安全性が、情報に対しても求められ始めており、より安全に情報を共有できるサービスに注目が集まると考えられます。

